

第2章 「明石らしい」景観形成とは

1 明石市都市景観形成基本計画

景観形成基本計画では、明石のめざす景観を面・線・点や景観スケールにより分類し、7つのゾーン、3つの線、3つの点と、それらを大きく眺望する眺望景観の14類型に分類して、それぞれの特性や課題を整理した景観形成の基本的な方針を定めています。

◆都市景観を景観スケールや拡がりで把握する



◆景観スケールを考慮した景観類型のイメージ

大景観	中景観			小景観
	自然	歴史	市街地	
①眺望景観	②田園ゾーン	⑤歴史ゾーン	⑥住宅ゾーン	
	③公園緑地ゾーン		⑦商業ゾーン	
	④海浜ゾーン		⑧工業ゾーン	
	⑨主要な道路軸			
	⑩河川軸			⑪まちを彩る道
	⑫シンボルポイント			⑭歴史ポイント 憩いの ポイント
	⑬まちかどポイント			
	明石海峡大橋・淡路島・播磨灘・他			

面
線
点
市域
市域外

図2－1 景観形成基本計画の景観類型の設定

また、市域を5つの地域に細分化し、各地域の景観資源をあらわした地域別景観資源図を作成するとともに、その地域の代表的な地区における主な景観形成の方針を示しています。（5～6ページの図2－2を参照）

これら地域別の景観資源や方針を理解し、ガイドラインと一体的に活用することが、地域特性に応じた良好な景観形成につながります。



⑤ 二見地域

- 二見港周辺においては、船溜りや漁港の営みなどの風物詩を生かし、周辺の歴史的な景観と調和した景観形成をめざします。
- 浜街道周辺の東二見地区においては、社寺や伝統的民家など歴史資源の保全・活用により、歴史の趣を残した景観形成をめざします。
- 南二見地区においては、工業地域の緑化による明石海浜公園との調和した景観形成をめざします。
- 山陽電鉄東二見駅と、新たに整備された山陽電鉄西二見駅においては、快適性の向上などにより、地区の拠点にふさわしいにぎわいのある景観形成をめざします。

④ 魚住地域

- 海岸部においては、緑豊かな住吉神社と住吉公園周辺の播磨灘の眺望を生かし、歴史の趣のある景観形成をめざします。
- 西岡地区においては、浜街道沿いに点在する寺社、伝統的民家、酒蔵群などの保全・活用により、歴史の趣を残した景観形成をめざします。
- 地域北部、西部に広がる広大な田園ゾーンにおいては、緑地・水辺空間の保全・育成による景観形成をめざします。
- JR魚住駅周辺においては、快適性の向上などにより、地区の拠点にふさわしいにぎわいのある景観形成をめざします。

③
 • 海岸
 • 海上
 • 高丘
 • 育成
 • ハマ
 • 蔵君
 • JR
 • 区を
 • しま
 • 石け
 • の
 • しょ

図2-2 景観形成基本計画の地域別資源と景観形成の方針



2 「明石らしい」景観を構成する3つの特徴

「明石らしい」景観形成を考えるときに、自然や歴史などの明石の特徴を把握することが基本となります。景観形成基本計画には、明石の景観は、「自然景観」、「歴史景観」、「市街地景観」、「生活景観」の4つの景観で構成されると示しています。

そのなかで、特に明石の景観を構成する（1）自然、（2）歴史、（3）市街地の3つの特徴を踏まえ、どのような「明石らしさ」があるのかをきめ細かく捉えることが重要です。

そのため、対象となる地域特性を読み取り、その魅力を大切にしながら、さらに高めることを意識することが、「明石らしさ」があふれる良好な景観形成につながります。

（1）自然的な特徴の把握

自然は、地形や季節の変化などから成り立つ景観形成の土台となるものです。

淡路島を背景とした明石海峡や海岸線、市域の中西部に広がる田園やそのなかに点在するため池などは、明石の原風景をイメージさせる印象的な景観となっています。そのため、まちから海岸への眺望など、その地形が持つ特徴や自然豊かな景観資源を手がかりに、景観形成を進めることが基本となります。

- ① 平地、丘陵地、傾斜地などの地形的な特徴
- ② その場からの遠景のまちなみなどの眺望
- ③ 外部の眺望ポイントなどからの見られ方
- ④ 河川や緑などの自然環境を構成する要素の連続性や分布状況

①の例



石ヶ谷公園

②の例



天文科学館からの眺望

③の例



ふれあいプラザあかし西からの見られ方

④の例



淡路島上空からの眺め

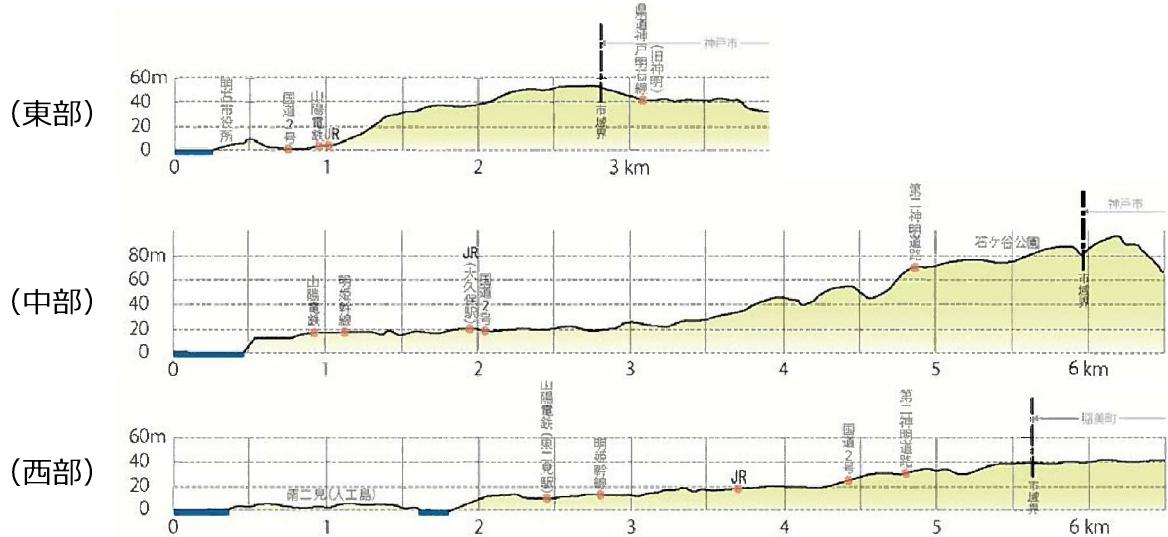


図2-3 明石の都市空間構成

(2) 歴史的な特徴の把握

明石の歴史は、西国街道や浜街道が通る交通の要衝の地として栄え、明石城跡を中心に武家屋敷や町屋で構成される城下町として発展してきました。それが、現在の中心市街地の原形となります。また、旧街道筋沿いには、今も昔の面影を残す町屋や酒蔵などの古くからの建造物が点在し、明石の歴史を表現した象徴的な景観となっています。そのため、地域の歴史的な拠点や、地域を支えてきた産業などの文化的な背景を手がかりに、景観形成を進めることができます。

- ① 明石城跡などの歴史的資源の拠点
- ② 地域を支える伝統的な産業や暮らしの歴史
- ③ 土地や建築物などの移り変わりや風景の変化
- ④ 地形や植生などの自然環境の変遷

①の例



明石城跡

②の例



大久保町西島の酒蔵

③の例



昭和36年（1961年）桜町付近

④の例



昭和41年（1966年）ハマ海岸

(3) 市街地の特徴の把握

明石には、「魚のまち」の象徴である魚の棚商店街などの商業地、南二見の人工島や国道2号沿いを中心とした工業地、松が丘や太寺、高丘などの住宅地のように、人の生活にもっとも深く関わる様々な市街地の景観があります。そのため、にぎわいづくりやうるおいとやすらぎなど、都市構造やその周辺地域のまちづくりの方向性を手がかりに、景観形成を進めることができます。

- ① 上位・関連計画からまちづくりの方向性
- ② 住宅地・商業地・工業地などの周辺の土地利用
- ③ 小学校区や自治会単位などの地域におけるまちづくりの取り組み
- ④ 市街地を構成する建築物、道路や公園などの施設の配置状況

①の例



中心市街地活性化基本計画区域内

②の例



太寺の住宅地

③の例



大久保町ハマのまちづくり

④の例



大久保駅南の航空写真



図2-3 明石市都市計画マスタープランの都市構造図

3 市民が選んだ「明石らしい」景観

明石のすばらしい景観を再発見してもらい、そのすばらしさを多くの人に知ってもらうことを目的に、市民の皆さんに広く募集し、平成19年に「わがまちあかし景観50選」を選定しました。

前述にある「明石らしい」景観を構成する「自然」、「歴史」、「市街地」の3つの特徴が表現された場所が選ばれています。

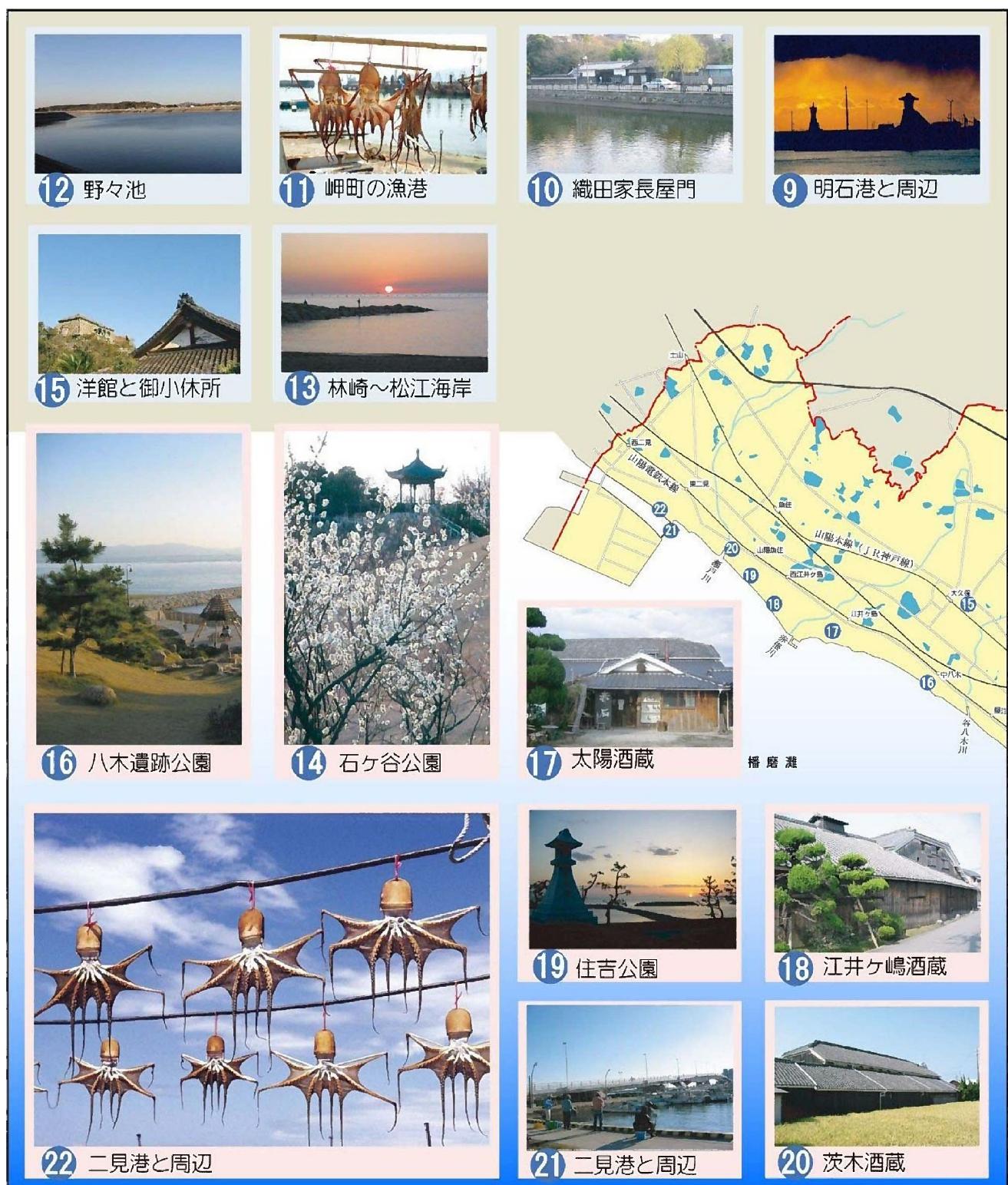
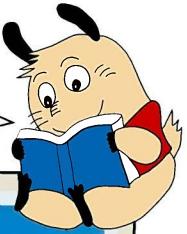


図2-4 代表的な明石の景観（わがまちあかし景観50選より抜粋）

また、そのなかには公園や海岸、公共建築物などの公共施設も多数選ばれていますので、市民の皆さんの愛着ある景観を理解することが重要となります。そのため、市民の皆さんのが明石に魅力を感じ愛着を持ち続けるために、公共施設の整備や維持管理に参加する機会を設けることが、より「明石らしい」景観形成につながります。

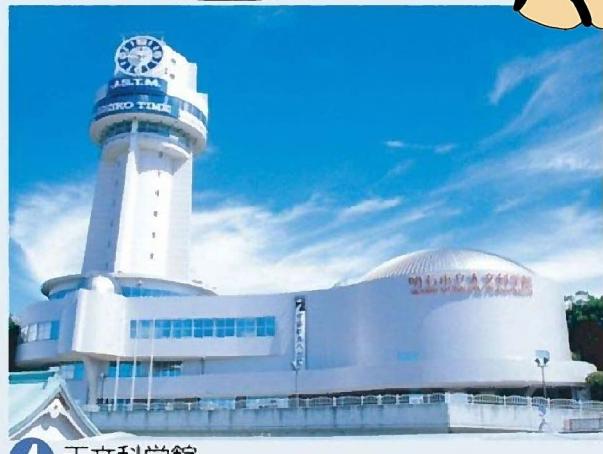
①眺望、②ランドマーク、
③環境（まちなみ・ひろがり）、④風物詩の4つの視点で選ばれているよ。



7 明石公園



2 大蔵のまちなみ



4 天文学館



5 天文科学館からの眺望



6 中崎公会堂



8 魚の棚



3 大蔵海岸



9 明石港と周辺



9 明石港と周辺



1 明石海峡大橋（大蔵海岸からの眺望）